

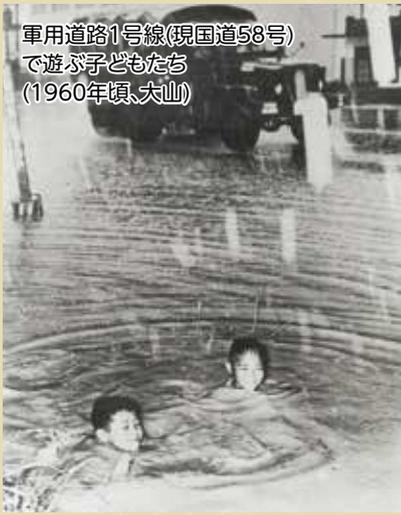


## ぎのわん 懐かしの雨事情

はいさ〜いよ5月に入り、梅雨本番を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか？



梅雨本番を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか？宜野湾市の雨事情を振り返ってみると、面白い写真があります。ご紹介し



問 市立博物館 ☎ 870-9317



浸水し、川のようにになっている道路(1973年、嘉数)

路1号線の写真です。昔は排水路が整っていなかったため、道路が浸水することもしばしば。衛生面が気になるところですが、当時の子どもたちにとってはひと時の楽しい遊び場でした。

宜野湾市は東側の標高が高く、西側の海岸線に向けて低くなっています。水は高い所から低い所へ流れるため、大山や宇地泊などの地域では、雨が降ると水が溢れることがよくありました。また、軍用道路5号線(普天満宮前の三叉路)も大雨が降るたびに水が溢れ、汚水による悪臭が問題になっていました。当時の雨事情や道路事情などについては、市報縮刷版や、宜野湾市史に詳しく載っていますので、是非ご覧ください！



見はその一部に該当します。中頭方西海道は宿道と呼ばれており、問切役人現、市町村職員が首里王府から各問切の番所(現、役所)への諸令達や貢租の上納に

文化課では、西普天間住宅地区で発見された「歴史の道(以下、中頭方西海道)」を中心に、沿道の湧水群・喜友名グスク・石切場跡など関連文化財を含めて、国の文化財として指定できる可能性について検討をしています。

中頭方西海道は、江戸時代初期に作成された国絵図こくえずに示されており、首里城を起点に沖縄島の西側に北上し浦添、宜野湾、北谷を経て、当時の読谷山ゆんたんざ(現、読谷村)へ至る道筋です。西普天間住宅地区の発



では動画などデジタル情報を発信しています。市公式YouTubeチャンネルがありますので、是非ご覧ください。



問 文化課 ☎ 893-4430